



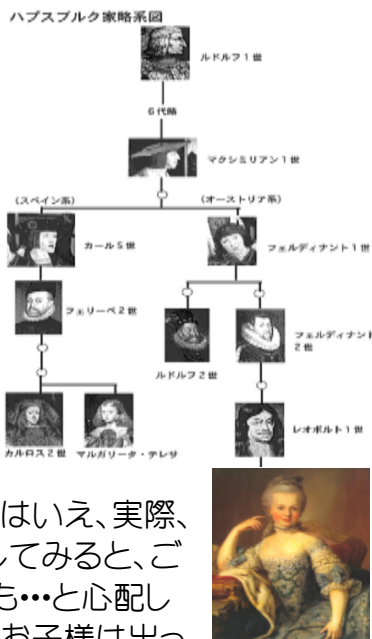
歯並びのお話2

NO.43

歯並びは遺伝するの？

街で、親子連れを見かけるとき、顔の輪郭・目鼻立ち・背格好・声までうり2つといった仲のよさそうなほほえましい光景を見かけることがあります。このような時、お子様の好むと好まざる？と、ご両親の影響が強いのだな～と感じます。しかし、遺伝とはいってもお子様にすべてがそっくり表に出るものではありません。何世代か後に現れるものやトンビから鷹のような突然変異などその表現系は様々です。

では、歯ならびではどうでしょうか？ 遺伝を象徴する話として歯科の中で有名なのが、中世から20世紀初頭まで中部ヨーロッパで強大な勢力を誇ったあのハプスブルグ家の人々です。そう、あの美人で有名な「マリー・アントワネット」の一族です。右の肖像画は、ハプスブルグ家の代々の皇帝とマリー・アントワネットのものです。よく見ると「ハプスブルグ家はうけ口の家系」のようです。ルドルフ1世から、5代6代…と孫・ひ孫の代までうけ口が多く、明らかに遺伝的要素が強く疑われます。とはいえ、実際、私たちの周りを見渡してみると、ご両親がうけ口で子供も…と心配していたところ、なんとお子様は出っ歯になったということもめずらしくありません。



このように、たいていの事象は、ご両親からの遺伝的要素だけでなく、生活習慣など、生を受けてから獲得していく**後天的要素(環境的要素)**が大きく関与してくるのです。

- 環境的要素としては、いろいろあげられます。歯ならび・かみ合わせに影響するものとして、
- 1.食生活(食べ物の性状など)
 - 2.後天的な発育の要素(妊娠中・授乳期の母親の健康状態、お子様のその後の栄養状態・病気など)
 - 3.鼻やのどの病気(慢性的な蓄膿症、アデノイドなど)
 - 4.顔や歯の外傷や疾患
 - 5.乳歯の虫歯
 - 6.舌・頬・唇等の筋肉の癖
 - 7.指しゃぶり、爪をかむ等の悪習癖
 - 8.日頃の運動や姿勢
- などです。



「ご両親の歯ならびが遺伝して、お子様もがたがたになったのでは？」と考えることもあるかと思いますが、確かに、歯ならび・かみ合わせも遺伝的な要素が無関係ではなさそうですが、親子間だけの受け渡りで決まったりするような単純なものでもなさそうです。まだ、私たちの先祖より遺伝的・環境的要素で変化しながら受け継がれ遺伝したものが、どのようにどれ位関与しているかは明らかではないものの、最終的な歯ならび・かみ合わせは、上のような環境的要素とのかね合いで決まっていると思われまます。遺伝的な要素は、今のところ甘んじて受け入れ、できれば**歯医者さんにも協力してもらい、環境的要素に配慮・注意していくのがよさそうですね。**

